

筑波実験動物研究会 第61回講演会 プログラム

最新版 AVMA ガイドラインの解説と各論 動物実験を取り巻く環境の最新情報

2023年1月20日(金) pm 13:30-17:10 オンライン(Zoom ウェビナー)

- 13:30 ▪ 13:35 事務局連絡
- 13:35 ▪ 13:40 開会の辞 小山 公成 会長
- 13:40 ▪ 14:25 『AVMA安楽死ガイドライン2020 概論 ー実験動物関連施設ー』
演者： 沖縄科学技術大学院大学
鈴木 真 先生
座長： 荒川 博 先生 (エーザイ)
- 14:25 ▪ 14:50 『げっ歯類とウサギの安楽死法の概要』
演者： 国立国際医療研究センター研究所 動物実験施設
岡村 匡史 先生
座長： 本多 新 先生 (自治医科大学)
- 14:50 ▪ 15:15 『イヌ・ブタ・サル of 安楽法について』
演者： 鹿児島大学 先端科学研究推進センター 生命科学動物実験ユニット
瀬戸山 健太郎 先生
座長： 松浦 裕一 先生 (農研機構)
- 15:20 ▪ 15:40 休憩
- 15:40 ▪ 16:00 法人会員からの製品・サービスのご紹介
- 16:00 ▪ 16:20 『水生動物・鳥類・家畜の安楽死法って? ～考え方と注意点～』
演者： 中外製薬株式会社 研究業務推進部
高井 了 先生
座長： 土田 衛 先生 (日油)
- 16:20 ▪ 16:50 『スイスを例として見る欧州の動物実験』
演者： 中外製薬株式会社
磯部 剛仁 先生
座長： 飯塚 生一 先生 (ツムラ)
- 16:50-17:00 閉会の辞 國田 智 副会長
- 17:00-17:10 事務局連絡

TALAS

<https://www.talas.jp/>





講演会参加者へのお願い

本講演会に関わるライブ配信動画の録画・録音・撮影・印刷やスクリーンショット等でキャプチャーする行為、また無断転用・複製は一切禁止いたします。

筑波実験動物研究会 事務局

筑波実験動物研究会 法人会員

アステラス製薬株式会社	株式会社アニマルケア
EPトレーディング株式会社	エーザイ株式会社
九動株式会社	株式会社ケー・エー・シー
株式会社小宮	三協ラボサービス株式会社
株式会社サンプラネット	ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン(株)
株式会社スターラボ	大鵬薬品工業株式会社
株式会社ツムラ	テクニプラスト・ジャパン株式会社
一般財団法人動物繁殖研究所	株式会社夏目製作所
ハムリー株式会社	株式会社ボゾリサーチセンター

(五十音順/全 18 社)



[最新版 AVMA ガイドラインの解説と各論]

座長: 荒川 博 先生(エーザイ)

AVMA 安楽死ガイドライン 2020: 概論

— 実験動物関連施設 —

沖縄科学技術大学院大学

鈴木 真 先生

動物実験を実施する研究機関や実験動物を繁殖する機関においては、日々、動物の安楽死が行われている。環境省の「動物の殺処分に関する指針」には、「その動物に苦痛を与えない方法によるよう努める」とあるが、具体的な方法に関する記述は乏しい。

このため、動物実験や繁殖の過程で動物を安楽死させる場合には、科学上の、あるいは経済上の目的を達成しつつ、動物にとって最善の安楽死法を選択することが必定となる。

本日は、愛玩動物を安楽死させる場合にも勿論であるが、実験動物や家畜などの経済動物を安楽死させる場合には、特に有用である AVMA 安楽死ガイドライン 2020 の概論を紹介する。また、実験動物関連施設において動物の安楽死を実施するにあたっての留意点(私見)を参加者と共有する。



[最新版 AVMA ガイドラインの解説と各論]

座長: 本多 新 先生(自治医科大学)

げっ歯類とウサギの安楽死法の概要

国立国際医療研究センター研究所

岡村 匡史 先生

米国獣医学会(AVMA)と日本実験動物医学専門医協会(JCLAM)の間で翻訳契約を締結し、AVMA 動物の安楽死指針:2020 年版(以下、本ガイドライン)が出版されました。本ガイドラインは安楽死の基準を定め、適切な安楽死法や安楽死薬が具体的に記載されており、獣医師が専門的な判断をする場面でサポートすることを意図して作成されています。適切な安楽死法や安楽死薬に加えて、適切な安楽死前処置薬(例えば、鎮静薬)、動物の取り扱い、ならびに遺体の処分に関する注意などについて配慮し、そしてそれらを適用することの重要性についても記載されています。

本セミナーでは、げっ歯類とウサギの安楽死法について、主な変更点を中心に概説します。



[最新版 AVMA ガイドラインの解説と各論]

座長:松浦 裕一 先生(農研機構)

イヌ・ブタ・サルの安楽死法について

鹿児島大学 先端科学研究推進センター 生命科学動物実験ユニット

瀬戸山 健太郎 先生

イヌ、ブタ、サルなどの中動物における容認される安楽死法として、バルビツール酸塩およびバルビツール酸誘導体の過剰投与が挙げられる。特にバルビツール酸塩は静脈内以外に体腔内、臓器内投与が可能であることから、静脈ラインの確保が困難な動物へも有用である。また、イヌでは、プロポフォールや解離性薬物+ $\alpha 2$ アドレナリン受容体作動薬などバルビツール酸誘導体以外の麻酔薬の過量投与は適当であると判断された場合にのみ容認とされているが、他の中大動物を考慮すると、2ステップ法(意識消失→安楽死)の意識消失させるための手法として有用である。他にも付加的方法として、麻酔下での塩化カリウム投与や放血も容認されており、本学の中型実験動物ではよく用いられている。

本講演ではこのような「米国獣医学会(AVMA)動物の安楽死指針 2020年版」に示されたイヌ、ブタ、サルなどの中動物における具体的な安楽死法について紹介する。



[最新版 AVMA ガイドラインの解説と各論]

座長:土田 衛 先生(日油)

AVMA ガイドライン解説 水生動物・鳥類の安楽死法って?!

～考え方と注意点～

中外製薬株式会社 研究業務推進部

高井 了 先生

米国では半世紀以上前から、人間が利用する動物の苦痛・苦悩からの解放手段として推奨される安楽死法の検討が進められ、「AVMA 動物の安楽死指針(安楽死ガイドライン)」として公表されております。今回は、魚類、水生無脊椎動物、両生類、爬虫類、鳥類の適正な安楽死処置方法について、AVMA ガイドライン 2020 の内容をもとに紹介します。

特に、哺乳類との相違点や具体的な注意点、推奨される安楽死法はもとより、安楽死法を選択する際の考え方について解説いたします。



[動物実験を取り巻く環境の最新情報]

座長:飯塚 生一 先生(ツムラ)

スイスを例として見る欧州の動物実験

中外製薬株式会社

礒部 剛仁 先生

欧州では動物実験の法規制が進んでおり、動物実験を実施するためには国の各種ライセンス取得が必要であるほか、計画書審査や施設監査が当局によって行われる。また飼育スペースなどの飼育環境について動物種ごとに具体的な基準が定められており、その動物福祉水準は高い。このような欧州における動物実験を取り巻く環境の現状を知ることは、日本における動物実験の管理運用の今後を考える上で有用であると考えられる。

本講演ではスイスの製薬会社にて動物実験に従事した者の視点から、現在の欧州における動物福祉水準、動物実験の規律などについてスイスを例に紹介する。